

変化する社会に主体的に対応する力の育成をめざした家庭科

下松市立下松小学校 浅村 芳枝

1 はじめに

現在、家庭の在り方の変化や急速な社会の情報化、持続可能な社会の構築など、社会がこれまでにないスピードで大きく変化している。このような社会で生きていく子どもたちに、こうした社会の変化に主体的に対応できる力を育成することが、これからの学校教育には期待されているのではないだろうか。変化する社会に主体的に対応する力を育成するためには、食育や消費者教育、環境教育、情報教育の充実を図ることがこれまで以上に重要となってくると思われるが、家庭科は教科の学習内容の中にそれらに関連する内容を含んでいる。そこで、私は家庭科の授業を通してそうした力を子どもに育成することを大切にしたいと考えた。

平成20年3月に告示された新学習指導要領の家庭科の内容項目からも、これまで以上に家庭科で食育や消費者教育、環境教育、情報教育等について学ばせることの大切さが感じられる。例えば、「B 日常の食事と調理の基礎」では、食事の栄養だけでなくその役割が扱われており、「D 身近な消費生活と環境」では、社会において主体的に生きる消費者としての態度を育成する視点が重視されている。

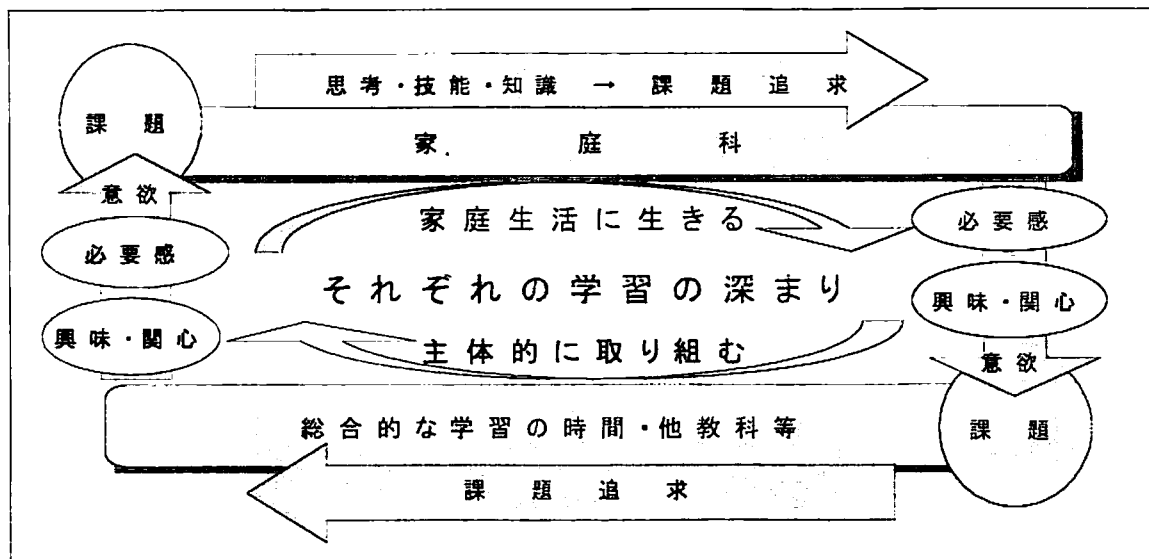
では、なぜそうした力を育成するために他教科等との関連を図る必要があるのだろうか。それは、他教科等との関連を図ることによって、自分が地域や社会とのつながりの中で生きていることや、自分の生活と身近な環境とにかかわりがあることを、子どもがより深く認識することができ、そうした視点から自分の家庭生活を見つめ直すことができるからである。そして、生活の身近な課題を社会や環境と関連させてとらえることができるようになるからである。私は、このことによって家庭科における食育、消費者教育、環境教育、情報教育を充実させることができるのではないかと考えた。また、家庭生活と社会や環境とのつながりを意識することによって、子どもは課題を解決する必要を強く感じ、より主体的に学習に取り組もうとするのではないだろうか。このように、他教科等との関連を図ることによって、家庭科の授業を通して変化する社会に主体的に対応する力を育成することができると考え、本研究を進めることにした。

2 研究の概要

(1) 関連についての考え方

家庭科の学習において興味や必要感を感じた課題のうち、家庭科の学習内容にはない知識・技能等を必要とするものを追求する場として、総合的な学習の時間や他教科等を位置付けた。さらに、総合的な学習の時間や他教科等で調べて興味や必要を感じた課題のうち、家庭科に関係の深いものについて調べたり実践したりする場として、家庭科を位置付けて考えることとした。家庭科と他教科等との関連を図ることによって、子どもはどちらの学習においても、課題の解決に向け、必要感をもってより広い視野から主体的に取り組むことができる。そして、そのことがそれぞれの学習を深めることになると考えた。さらにその結果、学んだことを家庭生活に実際に生かそうとする実践力を一層育成することができるのではないかと考えた(図1)。

図1 関連についての考え方



なお、実践に際しては次の2点に留意して取組みを進めた。

① 年間指導計画の編成の工夫

関係のある内容を含む題材及び単元を拾い出し、年間指導計画を編成した。(表1)

表1 家庭科年間指導計画(平成19年度の例) 5年

(○は時数を表す)

社会科	総合的な学習の時間	家庭科
1わたしたちの生活と食料生産 1米づくりのさかな庄内平野⑩ 2水産業の盛んな枕崎市⑥ 3これからの食料生産⑤ 2わたしたちの生活と工業生産 1自動車をつくる工業⑩ 2工業生産と工業地域⑤ 3工業生産と貿易⑤ 3わたしたちの生活と情報 1放送局の働き④ 2情報と社会⑥ 4わたしたちの国土と環境 1さまざまな自然とくらし⑨ 2わたしたちの生活と環境⑤ 3わたしたちの生活と森林⑤	1いろいろな人とふれ合おう 1友達⑩ (宿泊学習の準備をしよう) 2小さい子ども⑩ (小さい子どもに喜んでもらおう) 3外国人⑩ (英語で話そう) 4他県の友達⑩ (環境について話そう) 5下松の環境を守る人⑩ (下松市のごみの問題を考えよう) 2平和について考えよう 1原爆について調べよう⑩ 2平和について考えよう⑩ 3情報社会とわたしたち 1情報とわたしたち① 2献血と情報活用① 3献血の情報活用① 4献血についてもっと知ろう① 5情報社会について話し合おう①	1見つめよう!家庭生活 1家庭の仕事をみつめよう② 2できる仕事をふやそう⑩ 3くふうして仕事を続けよう② 2旬のおいしさいただきます! 1一日の食事調べをしよう② 2旬の野菜について調べよう② 3調理計画を立てよう② 4調理をしよう④ 5なぜ食べるのか考えよう② 3めって!使って!楽しい生活 1くらしの中の布製品を探そう① 2つくり方を調べよう④ 3楽しくつくってたくさん使おう⑥ 4くふうしよう!かしこい生活 1身の回りの物を見直そう① 2身の回りをきれいにしよう⑥ 3わたしたちのくらしとごみ④ 4めざせ!買い物名人⑤

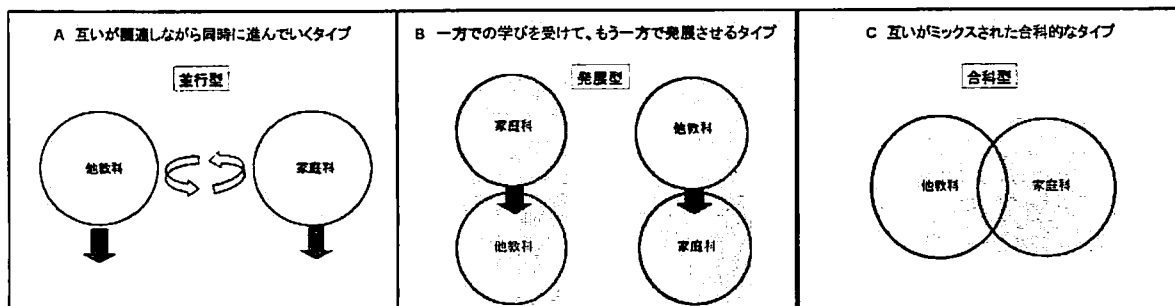
② それぞれを生かす題材・単元設定の工夫

それぞれのねらいは異なっても、子どもが興味や必然性をもって他方の学習を進めることができるようにするために、それぞれで身に付けた考え方、知識、技能などを関連によって生かせるよう考慮して、題材・単元を設定した。

(2) 関連のタイプ

家庭科と他教科等との関連の仕方には、3つのタイプが考えられる。これらのどの形で関連させていくのが最も効果的であるのか考え、関連を図ることにした。

図2 関連のタイプ



A 互いが関連しながら並行して同時に進んでいくタイプ

共通の教材・題材を扱うが、それぞれのねらいや学習課題が異なる。相互の関連を図りながら、一方を進めると同時にもう一方も進めていく。

B 一方での学びを受けて、もう一方で発展させるタイプ

扱う内容は似ているが、それぞれのねらいが異なる。一方の学習内容を受け、その後もう一方で更に発展的に学習していくことによって、子どもの意識を広げたり、深めたりしていく。

C 互いがミックスされた合科的なタイプ

学習のねらいや学習課題が同じである。1つの単元として考え、同じ時間を使って活動を行う。

(3) 各教科等との内容の関連性

内容的に家庭科と関連が深いものとして、まず総合的な学習の時間があげられる。しかし、学校のカリキュラムによっては、家庭科の題材との関連が深い場合とそうではない場合とがある。しかし、各教科の学習内容を視野に入れて現在のカリキュラムを見直してみると、家庭科との関連性が見えてくることがある。例えば、米づくりについて取り組んでいるならば、社会科の食料生産や理科の植物の発芽と成長や花から実へだけでなく、家庭科のごはんとみそしるづくりや環境に配慮した工夫、物の選び方や買い方、さらに、農家の仕事の大変さからは家庭の仕事や自分の分担する仕事にも学びを広げていくことができるであろう。

その他、家庭科と関連するものには、国語科、社会科、理科、道徳、特別活動などがある。この中で家庭科との共通点が多いのは、5年の社会科である(表2)。中でも特に食料生産、情報、国土と環境の領域は、関連が深い。食料生産では、食料がつくられて私たちのところに届くまでの様子や工夫、日本の食料問題について知ることができる。情報では、消費者として考える力を付けることができる。国土と環境では、環境とかがわっている私たちの生活について考えさせることができる。

表2 家庭科と関連のある教科と単元・題材

(1)～(8)は、家庭科の学習内容を表す					
	国語科	社会科	理科	体育科	道徳
5 年	森林のおくりもの(6)(8) インスタント食品とわたしたちの生活(4)	米づくりのさかんな庄内平野(5)(8) 水産業の盛んな枕崎市(5)(8) これからの食料生産とわたしたち(5)(7)(8) 工業生産と貿易(5)(7)(8) 情報と社会(7) わたしたちの生活と環境(2)(5)(6)(8)	植物の発芽と成長(5) 花から実へ(5)		地球を救おう子ども会議(8) 漂着ゴミのゆくえ(8) はじめてのアンカー(1)
6 年			ヒトや動物の体(4) 生物とかんきょう(5)(8) 自然とともに生きる(2)(5)(6)(8)	病気の予防(4)	ごみ出しまかせて(8) 「ほしい」ってなに？ 「必要」ってなに？(7) わたしのお父さん(1) 地球があぶない(2)(5)(6)(7)(8) まゆみちゃんと私(1)

また、他教科等との関連を図った学習に取り組む前に、1年から4年までにどのような家庭科の素地となる学習をしてきているかを把握しておく必要がある(表3・4)。主に生活科では内容(8)、道徳では(1)(8)、社会科では(5)(8)に関係のある内容を学習してきていることが分かった。

表3 家庭科の素地となる教科と単元・題材(1・2年)

(1)～(8)は、家庭科の学習内容を表す				
	国語科	生活科	体育科	道徳
1 年	サラダでげんき(1)	ぐんぐんのびろ(5) だいすきだよ(1) わくわくふゆがやってきた(8)		あるひのきょうしつ(6) かたたたき(1) きゅうしょくじまん(8) どろどろ(1) 「いただきます」ということ(4) もったいないばあさん(7) いいおぼけ(1)
2 年		ぐんぐんのびろ(5) レッツゴー！町探検(8) もっとしりたいな町のこと(8) こんなすてきな町なんだ(3) みんな大きくなったよね(8)		もののおきばしょ(6) 学校のつくえの中(6) お母さん(1) おんぶしてくれ(1) せかいのどこかで(4) ぼく、わたしはだあれ(1) おつかいマン(1)

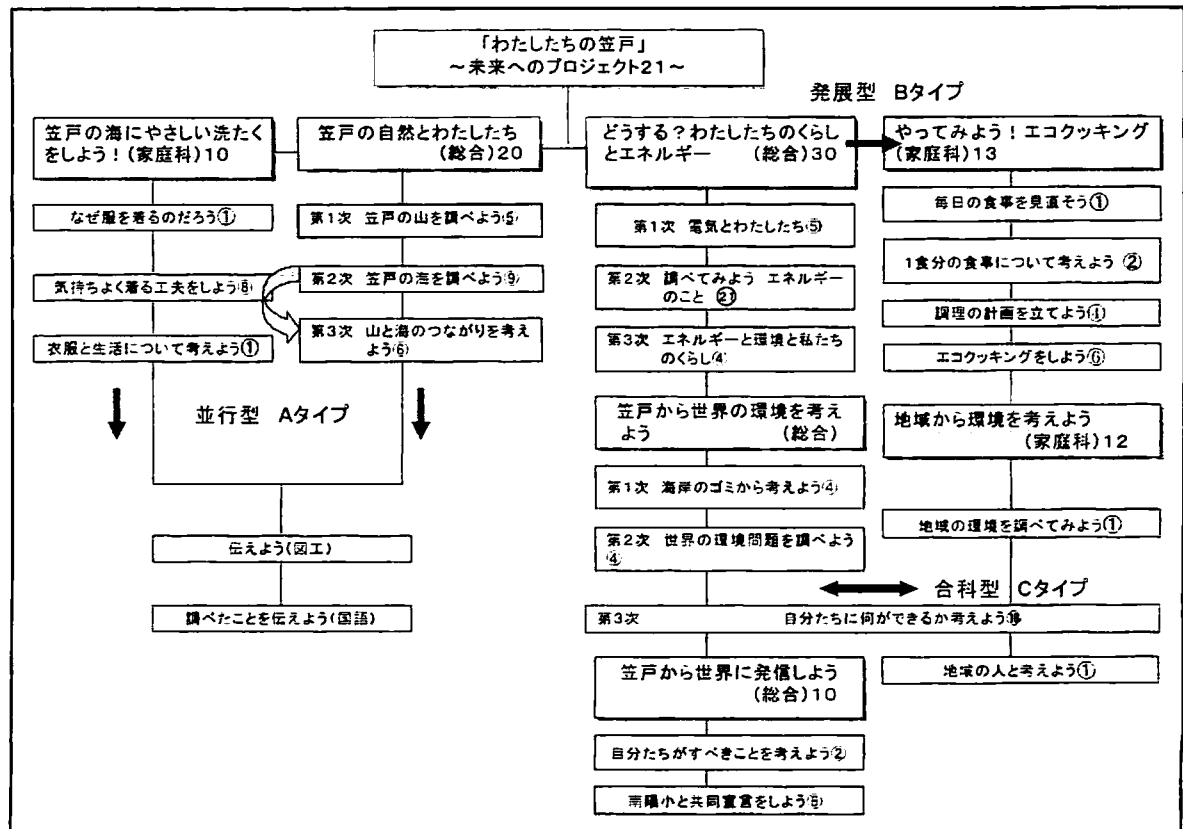
表4 家庭科の素地となる教科と単元・題材(3・4年)

		(1)~(8)は、家庭科の学習内容を表す				
	国語科	社会科	理科	体育科	道徳	
3年	/	スーパーマーケットではたらく人(7)(8) 農家のしごと(5)(8)	たねをまこう(5) 植物のつくりとそだち(5) 植物の一生(5) あたたかさ太陽の光(6)	1日の生活のしかた(1)	いい気持ちで生活しよう(6) どの仕事もたいせつなんだ(1) おばあちゃんはおいしゃさん(8) お母さん お手紙書きますよ(1) 地球にやさしくくらしよう(2)(5)(6)(7)(8)	
4年		お礼の手紙を書こう(1) くらしの中の和と洋(6)	ごみのしよ理と利用(6)(8) 水はどこから(2)(5)(8)	電気のはたらき(6) もののあたまり方(6)	よりよいからだの育ち(4)	日本のお父さん・お母さん(1) 江戸のエコライフ(8) ぼくたちの手で環境を守りたい(2)(5)(6)(7)(8) お元気ですか おばあちゃん(8) チェック チェック チェック!(1)

3 研究の実際

(1) 総合的な学習の時間との関連

図3 総合的な学習の時間との関連



① 「笠戸の海にやさしい洗たくをしよう」(5・6年複式)(環境) Aタイプ

海辺の学校での取り組みである。子どもの家庭からの排水は、そのまま海へと流れ込んでいた。そこで、海の生き物調べやごみ拾いを通して水を汚したくないという意識をもち始めたころ、海を汚さない洗たくの方法について調べ、実践するこの題材に取り組んだ。

ア 総合的な学習の時間「笠戸の自然とわたしたち」

学校の近くの山や海の観察や生き物調べやごみ調査などを通して、山と海と自分たちとのつながりを考えていった。川や海の水の汚れの調査やそこにすむ生き物の調査からは、家庭生活が身近な環境とかかわっていることが分かった。

イ 家庭科「笠戸の海にやさしい洗たくをしよう」

総合的な学習の時間での気付きから、排水の汚れを少なくする洗たくの仕方を考えることにした。一人一人が課題を立てて実験を行った。A児は、洗剤の量を変えても汚れは落ちるかという課題を立て、2倍・標準・2分の1・3分の1の量で汚れ落ちを調べた。(写真1) B児は、石けんと合成洗剤で排水の汚れが違うのかどうかを調べた。それぞれを使って同じ条件下で洗たくをし、その排水の汚れの量をパックテストを使って調べた。(写真2) これらの調べ学習から、洗たくの仕方を工夫することで排水の汚れを減らすことができることが分かった。



写真1 A児の実験

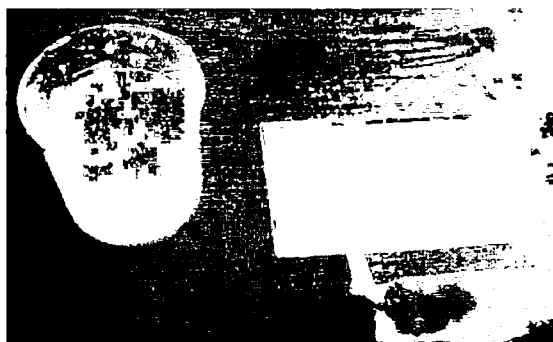


写真2 B児の実験

② 「やってみよう!エコクッキング」での関連(5・6年複式)(環境) Bタイプ

エネルギーを大切にしなければならないことに気付き、毎日の生活の中でそれを実践しようとする実践力を育てることをねらった。

ア 総合的な学習の時間「どうする?わたしたちのくらしとエネルギー」

子どもが暮らす島の電気はどこから来ているのかを調べ、身の回りの電化製品調べを行った。学校での停電体験後に市内の発電所の見学に行き、限りあるエネルギーを大切にするために自分たちにできることは何か考えた。

イ 家庭科「やってみよう!エコクッキング」

総合的な学習の時間での学習を通してエネルギーを大切にしなければならないと考えるようになった子どもは、調理ではエネルギーを大切にするためにどのような工夫ができるか調べることにした。後にエコクッキングをするにあたって、調理の過程をごみ・排水・エネルギーの視点で調べることにした。C児は、野菜の切り方によるゆで時間の違いを調べ、ガスの使用量を少なくする工夫を考えた。(写真3) D児は、食器を拭くことによって排水の汚れの量が減らせるのかどうかを、食器を拭かない場合の汚れの量と比べることによって調べた。(写真4) 洗剤の濃さと汚れの落ち方の違いについて調べ、排水の汚れの量を少なくする工夫を考えた子どもや、いためるときに入れる物の順番と調理時間の違いについて調べたりした子どももいた。



写真3 C児の実験

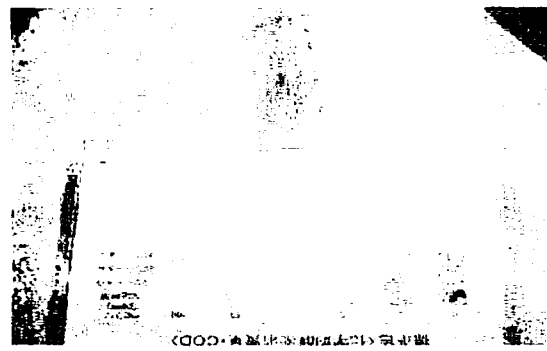


写真4 D児の実験

調理実習では、調べたことを生かして調理や後片付けをした。子どもは、自分たちで調べて分かったことを家庭生活に生かそうとする気持ちをもつようになった。

(2) 社会科との関連

① 「旬のおいしさ、いただきます!」での関連 (5年) (食育・環境・消費者) Bタイプ

外国のバイオ燃料の増産によって日本の食品が値上がりするなど、私たちの食生活と世界の国々とのかかわりとが身近に感じられようになってきた。また、フードマイレージなど、食品と環境との関係についても目が向けられるようになってきた。そこで、日本の食料自給の問題について考え、私たちの食生活の在り方を振り返り、解決のために行動しようとする意欲をもたせることをねらい、社会科の「これからの食料生産」と家庭科の「旬のおいしさ、いただきます!」とを関連させた。

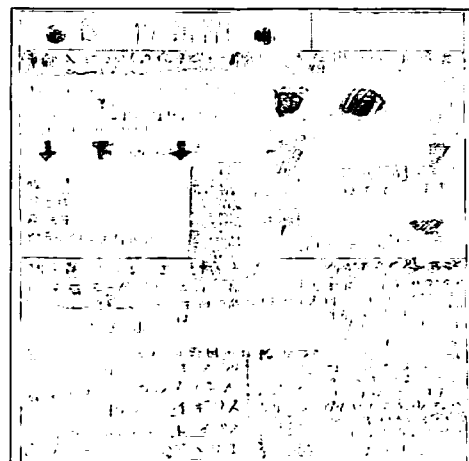
【社会科】「これからの食料生産」 (11時間)	【家庭科】「旬のおいしさ、いただきます!」 (13時間)
第1次 下松に来ている食料はどこから① 第2次 食料輸入に賛成? 反対?③ 第3次 日本の農家の姿① 第4次 食料生産と国土① 第5次 これからの日本の農業について考えよう⑤	小題材1 1日の食事を調べよう① 小題材2 野菜の旬について調べよう② 小題材3 旬の野菜の調理計画を立てよう④ 小題材4 調理をしよう④ 小題材5 なぜ食べるのか考えよう②

ア 社会科「これからの食料生産」

子どもがよく利用しているスーパーのチラシ調べから、自分たちが日ごろ食べている食べ物は国内をはじめ、野菜はニュージーランド、アメリカ、チリ、メキシコなどから、肉はオーストラリア、中国、アメリカ、ブラジルから、魚類はノルウェー、チリなどから来ていることが分かった。また、日本の食糧自給率は39パーセントであることや、食べ物の3分の1を捨てていることも分かった。

そこで、食料輸入に賛成か反対かについて考えていった。地域の人はどう考えているのかと地域のスーパーに行ってお客さんや店員にインタビューしたり、家族や友達にインタビューしたりした。

図4 食料新聞



中国からの輸入食品について毎日のように報道されていた時期だったので、「今日のニュースで、中国の野菜のことを言っていたよ。」と、自分たちの生活につながっている問題として、新聞を見たり、ニュースを聞いたりすることができるようになった子どももいた。「お母さんは、外国の野菜は安いけど買わないって言っていたよ。」と、家庭の食材の選び方に目を向けるようになった子どももいた。学習の最後に、各自が考えたことを新聞にまとめた。(図4)

この学習から、世界と私たちの台所とが深くつながっていることが分かった。

イ 家庭科「旬のおいしさ、いただきます！」

社会科の学習では、「自分にできることは やっていきたい。」という思いをもつようになったが、実際にはまだ人ごとと感じている段階である。そこで、子どもに自分のこととして考え、家庭で実践することのできる力を付けたいと考え、「旬のおいしさ、いただきます！」という題材を設定した。

まず、どのような野菜が下松の今の旬の野菜なのか考え、旬の野菜を食べることがなぜいいのか話し合った。このとき、「季節感」、「体にいい」、「使っている農薬が少ない」、「安い」、「栄養がある」、「新鮮」、「エネルギーをあまり使わない」と、子どもからは予想以上に多くの答えが出た。社会での学習が生きていることを感じた。

調理実習では、れんこんやごぼうなど秋が旬の野菜を使って、旬の野菜のゆでサラダや旬の野菜のいためものをつくった。クラスには野菜が苦手な子どもが多く、グループ内で材料を決めるのが大変だったが、みんなでおいしく食べることができた。教師の感想として、材料を買ったときに旬の野菜は種類が多く、値段も安かったことも伝えた。

(3) 社会科・総合的な学習の時間との関連

① 「めざせ！買い物名人」での関連（5年）（食育・環境・情報）Bタイプ

自分に必要な情報を集め、正しく読み取り、読み取ったことをもとに自分なりに判断して活用する力を育成することをねらい、社会科「わたしたちの生活と情報」、総合的な学習の時間「情報社会とわたしたち」、家庭科「めざせ！買い物名人」の関連を図った。

【総合】「情報社会とわたしたち」 (4時間)	【社会科】「わたしたちの生活と情報」 (11時間)	【家庭科】「めざせ！買い物名人」 (6時間)
第1次 情報とわたしたち① 第2次 献血と情報活用① 第3次 献血の情報活用① 第4次 情報社会について話し合おう①	導入 生活と情報① 第1次 放送局の働き④ 第2次 情報と社会⑥	小題材1 生活を支えるお金① 小題材2 商品の情報を読み取ろう② 小題材3 買い方・選び方について考えよう② 小題材4 これからの買い方を考えよう①

ア 社会科「わたしたちの生活と情報」

情報を手に入れる方法やそれぞれの特性について考えた。CMの内容や放送の時間帯からCMの工夫や送り手の意図を読み取っていった。

イ 総合的な学習の時間「情報社会とわたしたち」

献血における様々な情報を見付け、それぞれのよさについて考えた。情報の果たす役割について考える中で、情報社会のメリットを活かしながら、情報の受け取り手として気を付けるべきことを考えていった。

ウ 家庭科「めざせ！買い物名人」

商品に関する情報を手に入れる方法にはどのようなものがあるか話し合い、それぞれの方法のよさと問題点を考えたり、CMを視聴してどのような感じを受けたか、それはなぜかを話し合い、CMを見るときに気を付けるべきことについて考えたりした。

さらに、品物を買うにはどのような方法があるか考え、それぞれのよさと問題点を考えたり、食品の包装からどのような情報を読み取ることができるかを考えたりした。携帯電話を使ってのQRコードの読み取り体験では、生産者の思いや安全性を知ってもらうための工夫などを読み取ることができた。

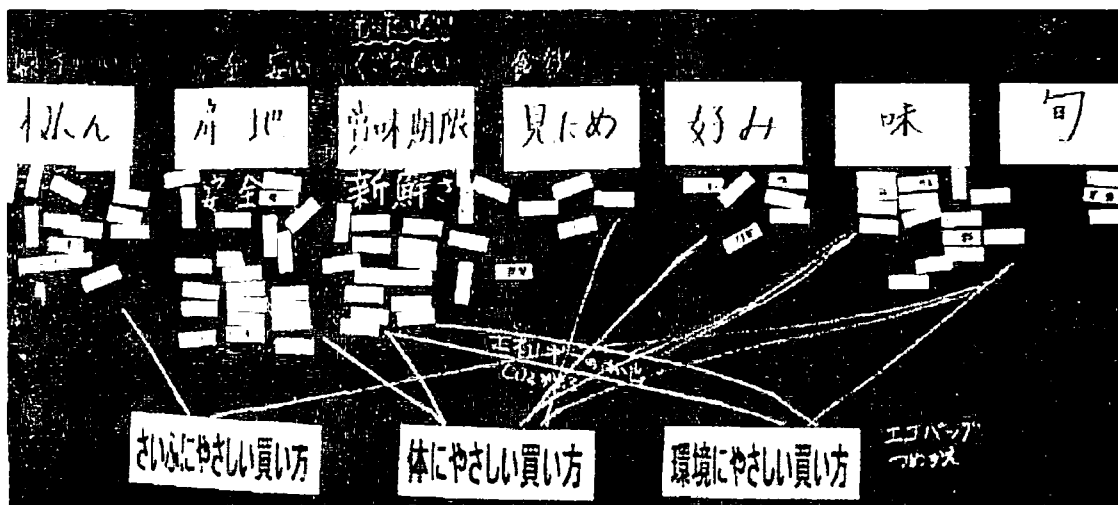
「これからの買い方を考えよう」では、買うときにどのようなことを重視して買うか考えていった。輸入食品について盛んに報道されていた時期だったので、産地や賞味期限など安全性を重視する子どもが多かった。写真5のように、それぞれの項目がどの買い方に関係が深いか見ていくと、旬のものを選ぶのはさいふにも体にも環境にもやさしい買い方であることが分かった。これらの学習を通して、自分の消費行動が環境にかかわっていることにも気付いた子どもは、環境にやさしい買い方も考えていこうとする意識をもつようになった。

子どもが考えた買うときに重視したい項目「値段」、「産地」、「賞味期限」、「見た目」、「好み」、「味」を見てみると、社会科の「これからの食料生産」、家庭科の「旬のおいしさ、いただきます！」で学習したことが生きていることが感じられた。(写真5) 教師が意識して取り組むことによって、こうした効果が得られたのではないかと思う。

【授業後の感想】

- ・食品を買うときには、自分にあつたことを重視して買おうと思った。
- ・食品は環境につながっていることが分かった。
- ・自分のためだけに買うのではなく、環境にもやさしい買い方ができるようにがんばりたいと思った。
- ・一つのことを重視していくことで、買い方が変わっていくことが分かった。
- ・旬はいろいろなこと(さいふ・体・環境)にやさしいことが分かった。
- ・特に旬を心がけて環境にやさしい買い方をしようと思った。今度買い物に行くときには、お母さんにも教えてあげようと思う。

写真5 何を重視して買うか

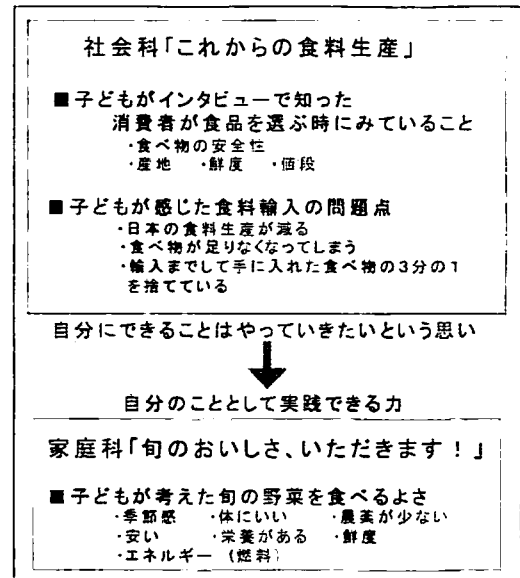


4 成果と課題

総合的な学習の時間や他教科等との関連を図ることによって、次のような成果をあげることができた。

- ① 環境問題の解決は一人一人のライフスタイルや考え方に大きく関係してくるが、考えたことが実践できなければ意味がない。他教科等との関連により、環境問題を自分たちの生活と結び付けて考えることができるようになり、家庭科での課題解決場面において子どもは興味や必要感を感じて取り組むことができた。
- ② 社会科では、食料生産や工業生産、情報、国土と環境から世界や日本各地との結び付きを考えていくので、家庭生活と社会とのつながりを感じ取らせることができた。また、社会科の学習で感じた問題点を自分のこととして考え、解決に向けて行動しようとする意識をもたせることができた。(図5)
- ③ 社会科と総合的な学習の時間と関連付けることによって、消費者としてどのように考え、行動するかを、実際の家庭生活に結び付けて考えさせることができた。その際、環境や情報の視点からも考えることができた。
- ④ 他教科等で学習したことと家庭科で学習したことが子どもの意識の中でつながった。例えば調理の実践においては、材料の購入、調理、片付け、ごみの始末等、その一つ一つを工夫することが環境を配慮する暮らし方につながっていることに気付かせることができ、調理実習において一層の工夫をすることができるようになった。その結果、家庭科のねらいを達成することができた。
- ⑤ 家庭科の学習内容との関連を図ることで、他教科等において意欲的に活動に取り組むことができ、他教科等での学習の質が高まった。

図5 関連付けによる子どもの気づき



これまでの実践を通して、家庭科のねらいを十分に達成するためには、家庭科と他教科等との関連を図った実践をその時々思いつきで行うのではなく、子どもに付けたい力を意識しながら2年間の学びを見通して計画的に取り組んでいくことが必要だと感じた。特に道徳との関連については、今後計画的に取り組んでいくことの必要性を感じた。これから、家庭生活と家族の大切さに気付かせ、家族の一員として家庭の仕事を分担することの意味を考えさせるなど、家族とのつながりや自己の成長について考えさせるためにも道徳を視野に入れたカリキュラムを作成し、実践に取り組んでいきたい。

そして、今後も家庭科と他教科等との関連を図ることで可能となる家庭科での学びについて研究していきたい。